

# ししとう栽培について

## 施肥例（10aあたり）

肥料名	基肥	追肥	使用時期
堆肥	4,000 kg		定植予定の1ヵ月前
苦土石灰	200 kg		
CDUたまご化成	100 kg		定植予定の1週間前
BMようりん	40 kg		
燐硝安加理S604		80 kg	収穫開始後～

### ◆栽植距離

うね幅 180 cm前後 株間 50 cm前後  
定植株数（10aあたり）株間50 cmで1,000本程度



### ◆定植準備

堆肥・苦土石灰は、定植前の1ヵ月前位に施し、土壌と十分になじませておく。定植1週間前位に肥料類を施し、ベット幅90cmのうねを作り黒マルチ0.02×135cmを張り、地温を確保しておく。尚、土壌水分不足している場合は、ベットを作る前に適湿になるようかん水する。ハウスの場合はかん水チューブを必ず使用する。（定植準備時にマルチ内に設置）

### ◆定植

晴天で風のない穏やかな日を選んで定植作業を行う。植え穴の脇に仮支柱をしっかり立てる。植え穴には粒状殺虫剤を施し、よく土壌混和しておき苗には定植前に液肥かん水を行い、根鉢部分に活着までの栄養分を持たせておく。定植は、深植えにならないようにし、根鉢と植え穴の隙間に土を入れるとともに根鉢の上に軽く土をかけ乾燥を防止する。定植後は、苗がぐらつかないようにすぐ仮支柱に誘引する。

### ◆定植後の管理

#### （1）初期水分管理

活着までは、手かん水で株元に確実にいき、順調な活着を促す。着果後は、かん水チューブを切り替えるが、初期のうちは少なめとし、徒長しないように注意する。気温が高くなるとともに活果数が多くなるので、かん水量を多くしていく。

#### （2）整枝

活着すると、第一分枝より下のわき目の生長が旺盛になるので、伸びすぎないように随時かきとる。主枝は、4本仕立てとする。

### (3) 誘引準備

露地：誘引するためのひもを張るための支柱を早めに立てておく。

ハウス：ひもによるつり上げ誘引線など。

### (4) 誘引

露地：枝が伸びてきたら支柱に横ひも（マイカー線など）を張り、支枝をテープナーなどでひもに誘引する。草勢が旺盛なほ場では2段階にすると良い。

ハウス：支枝が伸びてきたら倒れないうちにひもによりつり上げ誘引する。

### (5) 追肥

生育を見ながら10a当たり20kg程度、通路部分に散布する。

### (6) 敷きわら

乾燥防止、雑草の抑制のために通路部分に敷きわらを敷く。

### (7) 収穫期水分管理

根が浅いので、土壌水分が不足すると、生育や収量また果実品質に大きな影響が出やすい。適宜かん水を十分に行い、特に梅雨明け後の干ばつには注意する。ただし、過多かん水は疫病が発生しやすくなるので、注意すること。

### (8) 収穫期の整枝

露地：第一分枝より上部の側枝は放任とするが、過繁茂になったら内側に伸びた細い枝や徒長苗、通路に垂れ下がった枝を中心に除去し、株全体に光が当たるようにする。

ハウス：側枝の整枝は、低段では2～3節で摘芯し、株に負担をかけないようにする。中段以降は、4節で摘芯する。7月下旬を目安にやや強めに整枝するとよい。

